

ポーランド政治・社会情勢

(2012年1月12日～18日)

平成 24 年(2012 年)1 月 20 日

H E A D L I N E S	
<p>政治 戒厳令責任者に対する刑事責任判決 下院, 医療品費還付に関する改正法案可決 財政協定案についてのトゥスク首相のコメント チェニユフ参謀総長, 米国訪問 ポーランド軍特殊部隊, タリバンに捕らえられていた人質を解放 セレメト検事総長, ロシア訪問 シコルスキ外相, EU議長国の成果について演説 リーベルマン・イスラエル副首相兼外相, ポーランド訪問 軍検察, 政府専用機墜落事故の調査において新たな事実公表 ポーランド・独・露の外務副大臣・次官による会合 ハンガリーをめぐるEU内での論争に関し, ポーランド要人はハンガリーを擁護 2011年の軍退職者数発表 リンケーヴィチ・ラトビア外相, ポーランド訪問</p>	<p>【お願い】3か月以上滞在される場合、在留届を大使館に提出していただき、大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります！</p> <p>問合せ先 大使館領事部 電話 22 696 5005 Fax 5006 各種証明書 在外投票 旅券 戸籍 国籍関係の届出についてもどうぞ。</p>
<p>経済 政府財政改革案, 欧州委員会から評価 海外投資情報庁, 2012年の投資見通し ポーランド国債の需要は活況, ズロチ相場も値上がり グダンスク港, アジアとの航路拡充 ポーランド航空, 中国への周航を5月に開始 2011年12月, 実質賃金下落 RWE社, 1,000MW級ガス火力発電所建設計画</p>	
<p>社会 サッカー日本代表・松井大輔選手, レギア・ワルシャワの練習キャンプに参加</p>	
<p>大使館からのお知らせ ヴロツワフ領事出張サービスについて 東日本大震災義捐金受付について 文化行事・大使館関連行事</p>	
<p>在ポーランド日本国大使館 ul.Szwolczerow 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000 http://www.pl.emb-japan.go.jp/index.j.htm</p>	

政	治
内	政

戒厳令責任者に対する刑事責任判決【12日】

12日、ワルシャワ管区裁判所は、81年に戒厳令を発動した決定の違法性を認め、キシチュク元内務相に禁固4年の有罪判決を下した(同判決は恩赦により執行猶予5年、禁固2年に減刑された)。なお、ヤルゼルス元大統領に関する訴訟手続きは、同人の健康上の理由から裁判が停止されている。

下院、医療品費還付に関する改正法案可決【13日】

医療品費還付に関する改正法を巡る混乱で、アルウコヴィチ保健相は、医師に対する罰則規定を除外する新たな改正法案を下院に提出し、13日、改めて同法案が下院で可決された。なお、同法案には薬剤師に対する罰則規定が除外されていないままで、薬剤師による抗議行動が各地で発生している。

財政協定案についてのトゥスク首相のコメント【18日】

18日の記者会見で、トゥスク首相は、「ポーランドがユーロ圏サミットへの参加が認められないのであれば、協定への貢献はできない」と述べ、先月EU首脳会議で合意した財政協定案に対する意見を変えた旨表明。先週、ポーランドがユーロ圏サミットに参加できないことに対して質問を受けた際、同首相は重大な関心を示しているように見受けられなかったため、右発言は、一部では驚きをもって受けとめられている。多くの政治家は、ポーランドがユーロ圏を財政的に支援する意向を有していたが、意思決定過程から外されたため、トゥスク首相の発言の変化に驚いていないと述べている。なお、ロストフスキ財務相は、「トゥスク首相の発言は、IMFに対するポーランドの貸付金に関することではない」と述べている。

外	交
---	---

チェニユフ参謀総長、米国訪問【9～13日】

9日～13日、チェニユフ参謀総長は米国を訪問。デンプシー統合参謀本部議長、アプリアルNATO変革連合軍最高司令官らと会談し、ポーランドと米国の軍事協力、アフガニスタン情勢等について協議。

ポーランド軍特殊部隊、タリバンに捕らえられていた人質を解放【10日】

10日、アフガニスタン東部シャランにある政府庁舎がタリバンに占拠され、3人が人質となっていた事案で、ポーランド軍特殊部隊が実施した救出作戦の結果、人質は無事解放された。同作戦は、アフガニスタン警察と米軍部隊による数回の人質解放の試みが失敗した後、ポーランド軍特殊部隊がアフガニスタン特殊部隊の支援を得て実施されたもの。

セレメト検事総長、ロシア訪問【11～13日】

11～13日、セレメト検事総長はモスクワを訪問し、露連邦検察庁及び2010年の政府専用機墜落事故調査委員会の代表らと協議。同事故に関し、別々に調査を行っている両国の検察当局者が2月にワルシャワで会議を開き、これまでの調査内容について見直すことを表明。

シコルスキ外相、EU議長国の成果について演説【12日】

12日、シコルスキ外相は、下院にてEU議長国の成果を総括する演説を行い、議長国期間を通じて、ポーランドのEU及び国際舞台における地位が向上

したと評価。また、議長国の役割を減じたりスボン条約下においても、議長国はEU内での問題解決や合意形成に影響を与えることができ、特に、欧州対外活動庁と議長国の協力が有効である旨主張した。

リーベルマン・イスラエル副首相兼外相、ポーランド訪問【15～16日】

15～16日、リーベルマン・イスラエル副首相兼外相は、ポーランドを訪問。シコルスキ外相と会談し、イラン情勢を中心に、中東和平、「アラブの春」の動向等、中東情勢について協議。また、パヴラク副首相兼経済相と会談し、両国企業の防衛、先端技術分野での共同プロジェクトや貿易面での協力強化について協議。さらに、シャモニャク国防相とも会談し、両国の防衛協力、中東周辺の安全保障、イランの核問題等について協議。

軍検察、政府専用機墜落事故の調査において新たな事実公表【16日】

16日、軍検察は記者会見において、専門家による事故機フライトレコーダーの解析結果を公表。これまでプシク空軍司令官(当時)のものとして認知されていた声は副操縦士のものであり、同司令官が操縦室内で乗員に圧力をかけていた証拠は一切ないと発表。同時に、事故当時、同司令官が操縦室にいなかったという証拠もないとした。(これまで露側の事故調査委員会は、事故当時プシク司令官は操縦室にあり、空港管制官の警告にもかかわらず着陸しようパイロットに圧力をかけたと主張。)

ポーランド・独・露の外務副大臣・次官による会合【16日】

16日、ポミャノフスキ外務次官は、ワルシャワにてハーベル独外務副大臣及びティトフ露外務次官と会合。ベルリンで開催される第2回ポーランド・独・露三国外相会合に向け、EU・露関係、三国での協力可能な分野、国際情勢等について協議。

ハンガリーをめぐるEU内での論争に関し、ポーランド要人はハンガリーを擁護【16, 18日】

16日、シコルスキ外相は、ハンガリーの新憲法がEU法に抵触するとして、EU内で論争となっていることに関し、マルトニ・ハンガリー外相と電話会談。マルトニ外相は、本件に関するポーランドの「バランスの取れた態度」に謝意を表明。18日には、トウスク首相が「欧州議会等ではヒステリックなハンガリー批判が見られ、不当ではない。ポーランドは、ハンガリー側が望むなら、何らかの形で政治的な支持を表明す

る」と発言。

2011年の軍退職者数発表【17日】

17日、国防省は2011年の退職者総数が約7,400名であったことを発表。その多くを占める依願退職者のうち45%が年金受給資格を持たないことから、国防省は彼らが民間の雇用機会に向かっているものと分析。現在、本年7月からの給与引き上げを検討中。

リンケーヴィチ・ラトヴィア外相、ポーランド訪問【18日】

18日、リンケーヴィチ・ラトヴィア外相は、ポーランドを訪問し、シコルスキ外相、ドヴギエレヴィチ外務副大臣と会談。5月にシカゴで開催されるNATO首脳会合の準備のほか、エネルギー安全保障やEUの2014~2020年予算等、周辺地域及びEUの課題に関する両国の協力について協議。

経 済

政府財政改革案、欧州委員会から評価【12日】

欧州委員会のレーン委員は、ポーランドは2012年、過度な赤字を出すことはないだろうとコメント。欧州委員会の意見では2012年のポーランドの財政赤字はGDP比3.3%と予想され、財政を均衡させるための正しい道を進んでいると評価。欧州委員会は改めて2012年予算の見直しを行った5か国の中でベルギー、キプロス、マルタ、ポーランドについてはその内容を評価し、ハンガリーに対しては不十分としている。この発表を受けて、ロストフスキ財務相は13日、今年度予算案で見込んでいる通り2.5%の経済成長を達成すれば、ポーランドは超過債務手続きの対象国から解除される見込みと報道陣に語っている。

海外投資情報庁、2012年の投資見通し【12日】

海外投資情報庁(Paliiz)のマイマン総裁は、2012年の海外直接投資は、世界経済に劇的な変化がなければ、前年比5~8%上昇すると発表。一方で、Paliizのミカウスキ局長は前年の成果を今年再現することは非常に困難な見通しで、外国企業、特に銀行部門は明らかに利益を落としていると指摘。同局長は、対外直接投資については、2012年は100億ユーロを超えとも言われ、対内直接投資を上回る可能性もあると指摘。

ポーランド国債の需要は活況、ズロチ相場も値上がり【13日】

ポーランド政府の財政引き締め策及びポーランド経済の強化に関する宣言は、投資家の高い信頼を

得たようである。財務省は12日に大規模な国債の入札を行ったが、何の問題もなく買い手がついた。同省は予定していた上限額いっぱいの34.7億ズロチ相当の国債を売却したが、需要は供給を大きく上回るものであった。5年物国債は平均利回り5.246%で23億ズロチ相当、固定利率5.931%の17年物国債は7億3千万ズロチ相当が投資家に売却された。また、固定利率2.495%+インフレ率の5年物国債は6.57億ズロチ相当が売却されたが、需要は供給の2倍にもなった。今回の入札の成功により、ズロチ相場も値上がりしている。なお、1月4日に行った入札で、ポーランド政府は既に2012年の借り入れ需要の25%相当の63億ズロチを得ており、当該入札の10年物国債の利回りは5.899%であった。

グダンスク港、アジアとの航路拡充【17日】

ポメラニア経済特別区は中国広東省の珠海市との間で、ポメラニア地区の港(グディニア、グダンスク)と高蘭港の双方の開発協力に関する合意文書に署名した。バルト海で唯一の深海コンテナターミナルであるグダンスク港は2010年以降、中国の港からMaerskライン社の定期船舶を受け入れている。さらに、三井商船、日本郵船、APL社(シンガポール)、現代商船(韓国)、Hapag-Lloyd社(ドイツ)、OOCL社(香港)で形成されるG6アライアンス(定期コンテナ船共同運行組織)も、2012年4月から欧州と極東アジアを結ぶ既存の航路にグダンスク港を加えると発表している。

ポーランド航空、中国への周航を5月に開始【18日】

5月30日、ポーランド航空(LOT)は北京への周航を開始する。同社は、中国側のカウンターパートである中華国際航空と最終的な協議を詰めている。しかしながら、航空券販売は2、3週間後には開始する予定。本周航は、週3便を予定し、もっとも便利な時間に離発着ができるようスケジュールされており、将来的には週7便になる可能性もある。機体はボーイング767を利用し、後にボーイング787に置き換える予定。同路線の開設で、ポーランドと中国間の経済を刺激することが期待される。2011年、ポーランドから中国への訪問客数は8万人であった。

2011年12月、実質賃金下落【18日】

中央統計局によると、大方の専門家が予想していたとおり、2011年12月は賃金上昇率がインフレ率を下回った。賃金は名目ベースで前年同月比4.4%上昇した一方、実質では同-0.2%となった。2011年全体では実質賃金上昇率は0.6%。10人以上を雇用する企業部門の平均月額賃金は

4,010ズロチであった。雇用率も12月は前月比0.2%下落したが、前年同月比では2.3%上昇。2011年末時点では企業は550万人を雇用。ING銀行のシロンスキ氏は、12月の数値は企業が事態の悪化に備えていることを示していると指摘。

RWE社、1,000MW級ガス火力発電所建設計画【18日】

RWE社が、低炭素及び無炭素エネルギー部門の強化を見込む同社の戦略に則って、ポーランド南部のチェンストホーヴァ近郊に1,000MW級の火力発電所建設を検討中。既にチェンストホーヴァ市長とも話し合いがもたれているが、チェンストホーヴァは候補地の一つであり、最終決定は2年後以降になされる。最も有力な候補地は、2011年に開通したガス・パイプラインに近接する旧チェンストホーヴァ鉄工所で、民営化が予定されているエルセン・エネルギー社が同所を所有している。RWE社はティヒ近郊のヴォラで800MW級の石炭火力発電所を建設することを計画していたが、2011年9月にこれを撤回している。

社 会

サッカー日本代表・松井大輔選手、レギア・ワルシャワの練習キャンプに参加【17日】

ガゼタ・ヴィボルチャ紙は、仏サッカー1部リーグ(リーグ・アン)のディジョンFCOに所属し、日本代表でもある松井大輔選手が、キプロスで行われている、ポーランド・サッカー1部リーグ(エクストラクラサ)のレギア・ワルシャワの練習キャンプに16日から参

加していると報道。同キャンプの結果次第で、松井選手がレギアへ入団する可能性があることが報じられている。同紙は、松井選手について、南アフリカで開催された2010年のサッカーW杯日本代表の中心選手として活躍したこと、同選手の攻撃的スタイルがレギアにとってプラスになること等を伝えている。

大使館からのお知らせ

ヴロツワフ領事出張サービスについて

大使館は、3月3日(土)10時から13時までの間、Hotel Mercure Wroclaw Panorama(Pl. Dominikanski 1, 50-159, Wroclaw)において、領事出張サービスを実施します。詳しくは、下記HPをご覧ください。
http://www.pl.emb-japan.go.jp/konsulat/ryoji_sabisu_0112.pdf

東日本大震災義捐金受付について

当館における東日本大震災義捐金受付は、平成24年3月31日(土)までに延長いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

<http://www.pl.emb-japan.go.jp/jishin/gienkin.j.htm>

文化行事・大使館関連行事

(開催中) ボグダン・ズドロイエフスキ文化大臣による写真展【12月16日(金)～1月31日(火)】

在ポーランド日本国大使館広報文化センター展示ホールにおいて、「日本 2011年6月1 - 5日」写真展が開催されています。撮影者は、東日本大震災後の2011年6月に日本を訪問したボグダン・ズドロイエフスキ文化・国民遺産大臣です。同大臣は日本滞在中に東京のほか、宮城県の被災地を訪問し、各地で強く印象に残

った風景や人物をカメラに収めました。展示は被災地及びその他の地域で撮影した20点以上の写真から構成されています。どうぞご来場下さい。

問合せ先・開催場所: 在ポーランド日本国大使館広報文化センター(住所: Al. Ujazdowskie 51(4階フロア), 代表電話: (22) 584 7300, Eメール: info-cul@emb-japan.pl)

展示時間: 月曜日-金曜日 9:00-17:00(土日・祝日は閉館)

〔開催中〕 浮世絵展「富士山、北斎と広重」 【1月20日(金)～5月6日(水)】

クラクフの日本美術技術博物館(通称「マンガ博物館」)において、浮世絵展「富士山、北斎と広重」が開催されています。日本の浮世絵展示の他、日本に関する講演会やワークショップ等が行われます。

問合せ先・開催場所: 日本美術技術博物館(住所: Konopnickiej 26, Krakow, 電話: 12 267 2703, Eメール: museum@manggha.krakow.pl, ホームページ: <http://www.manggha.krakow.pl/>)

〔予定〕 第8回日本文化講座「ワルシャワ国立博物館所蔵の浮世絵コレクション」【1月25日(水)】

大使館広報文化センターにおいて、第8回日本文化講座が開催されます。今回の講座テーマは浮世絵とし、ワルシャワ国立博物館学芸員であるアンナ・カタジナ・マレシコ氏により、同博物館所蔵の浮世絵コレクションに関して講演が行われます。講演はポーランド語です(日本語への通訳はありません)。参加ご希望の方は、下記連絡先までお知らせください。

問合せ先・開催場所: 日本国大使館広報文化センター(住所: Al. Ujazdowskie 51, 電話: 22 584 7300, Eメール: info-cul@emb-japan.pl)

この資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

皆様からの情報提供をお待ちしています

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やおすすめのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまでご連絡ください。(営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますのでご了承ください。)

【お問い合わせ・配信登録】

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先メールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のアドレスまでご連絡ください。

大使館ウェブサイト(http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm)も併せて御覧ください。

在ポーランド日本国大使館 newsmail@emb-japan.pl

(ご連絡は電子メールでお願いします。)